

## 国際学会発表報告書

2026 年 4 月 1 日

日本先天異常学会  
理事長 小崎 健次郎 殿所属機関 国立医薬品食品衛生研究所氏 名 横田 理

演題名	A new approached method for long-term evaluation of reproductive toxicity and its recovery using a mouse testis organ culture system	
参加学会名	開催国名	
The 65th Annual Meeting & Tox Expo (2026 SOT Annual Meeting and ToxExpo)	アメリカ合衆国	
発表日	開催国名	発表種別
2026 年 3 月 23 日	サンディエゴ	ポスター
概要ならびに成果 (1,000 字以上記入すること)		
<p>米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された The 65th Annual Meeting &amp; Tox Expo に参加してまいりました。本学会は毒性学分野の国際会議の中では最も規模が大きく、基礎や応用研究の成果発表のみならず、医薬品および化学物質規制に関する議論も行われる学術的・社会的に重要な国際会議と位置づけられています。</p> <p>レギュラトリーサイエンス分野においては、動物 3Rs の観点を考慮した新規評価手法 (New Approached Methodologies: NAMs) の開発とそれらを用いた規制への反映が世界的に希求されております。現状、NAMs の開発に関しては、皮膚や眼といった局所毒性の検出系の開発に成功しており、厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所内にある日本動物実験代替法評価センター (JaCVAM) もこの功績に大きく寄与しております。一方で、全身毒性の NAMs 開発に関しては、免疫毒性評価の一部を除き、皆無といった状況です。</p> <p>私は、当研究所・毒性部において、生殖発生毒性評価法の開発研究に従事しており、産官学の連携のもと、これまでに複数の新規評価法の開発に携わってまいりました。その中で今回は、「in vivo 環境を模倣する精巣器官培養法の開発」と「本法を用いた抗がん剤の精巣毒性と回復性評価」について成果発表を行いました。本成果は、First in Human で実施される小児がんサバイバーシップの向上に資するため、避妊期間の科学的エビデンスの提供に資する基礎データを NAMs から明らかにできる可能性を示唆する行政的にも学術的にもインパクトの高い成果を得ることができました。</p> <p>発表当日は、欧米を中心に産官学の様々な研究者がポスターに訪れ、本法の標準化や実用化に向けた議論を行いました。当学会での発表を経験させて頂き、単なる研究成果の発信にとどまらず、私どもの研究が毒性学・生殖医学・規制科学において、学術的な意義を持つことを改めて認識いたしました。このような機会は、日本先天異常学会のご支援なくしては得られなかったものであり、心より感謝申し上げます。引き続き、貴学会の発展に貢献できるようより一層の努力をして参ります。今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。</p>		

\*学会発表後 2 週間以内に本報告書を学会事務局まで提出してください。

\*学会ホームページ掲載用の写真などございましたら、合せてお送りください。

